

「豊かな報いを受ける」

2018年08月15日

ヨハネの手紙 二 7節～13節 このように書くのは、人を惑わす者が大勢世に出て来たからです。彼らは、イエス・キリストが肉となって来られたことを公に言い表そうとしません。こういう者は人を惑わす者、反キリストです。気をつけて、わたしたちが努力して得たものを失うことなく、豊かな報いを受けるようにしなさい。だれであろうと、キリストの教えを越えて、これにとどまらない者は、神に結ばれていません。その教えにとどまっている人にこそ、御父も御子もおられます。この教えを携えずにあなたがたのところに来る者は、家に入れてはなりません。挨拶してもなりません。そのような者に挨拶する人は、その悪い行いに加わるのです。

あなたがたに書くことはまだいろいろありますが、紙とインクで書こうとは思いません。わたしたちの喜びが満ちあふれるように、あなたがたのところに行って親しく話し合いたいものです。あなたの姉妹、選ばれた婦人の子供たちが、あなたによろしくと言っています。

ヨハネ(二)の著者・長老は「選ばれた婦人とその子たちへ」と、当時、軽視されていた女性と子どもに宛てて手紙を書いている。「父である神と、その父の御子イエス・キリストからの恵みと憐れみと平和は、真理と愛のうちにわたしたちと共にあります」と、同じ信仰にあって、主イエスから示された真理と愛を共にしていると語り、「愛とは、御父の掟に従って歩むことであり、この掟とは、あなたがたが初めから聞いていたように、愛に歩むことです」と、互いに愛し合って生きるように勧めている。

長老は、このように愛を勧めるのは、人を惑わす者が大勢世に出て来て、主イエスが肉となって来られたことを公に言い表そうとせず、これを否定するからであると言う。こういう者は人を惑わす者、反キリストである。私たちが努力して、主イエスに聞き、得たものを失うことなく、豊かな報いを受けるように気をつけなさい。誰であろうと、キリストの教えを越えて、教えに留まらない者は、神に結ばれていない。キリストの教えに留まっている人にこそ、御父も御子イエスも共におられる。この教えを否定してあなたがたのところに来る者は、家に入れてはならない。挨拶してもならない。彼らに挨拶する人は、その悪い行いに加わることになる。

「ヨハネ教団」の周りでは、主イエスは肉となって遣わされたのではなく、霊的な存在であると語るグノーシス主義の教えが広まっていた。霊的なイエス像を語る教えは、信仰を抽象的に理解し、この世の問題に具体的に関わることを止めてしまう。他者との関りを責任的に果たそうとしなくなり、信仰が知的な遊びに墮する。「ヨハネ教団」は、主イエスは肉を持って遣わされた。それは、神はこの世に具体的に関わってくださったことの証しであると理解し、相手の痛みに届く愛であるように説いたのである。

長老は、「あなたがたに書くことはまだいろいろありますが、紙とインクで書こうとは思いません」と述べ、主イエスにある真の喜びが満ち溢れるように、「あなたがたのところに行って親しく話し合いたいものです」と書いている。顔と顔を合わせて、愛を互に確認し合う。そこに、主イエスの愛が息づく教会の姿がある。「あなたの姉妹、選ばれた婦人の子供たちが、あなたによろしくと言っています」と、女性たちと子どもたちからの挨拶も伝えている。